



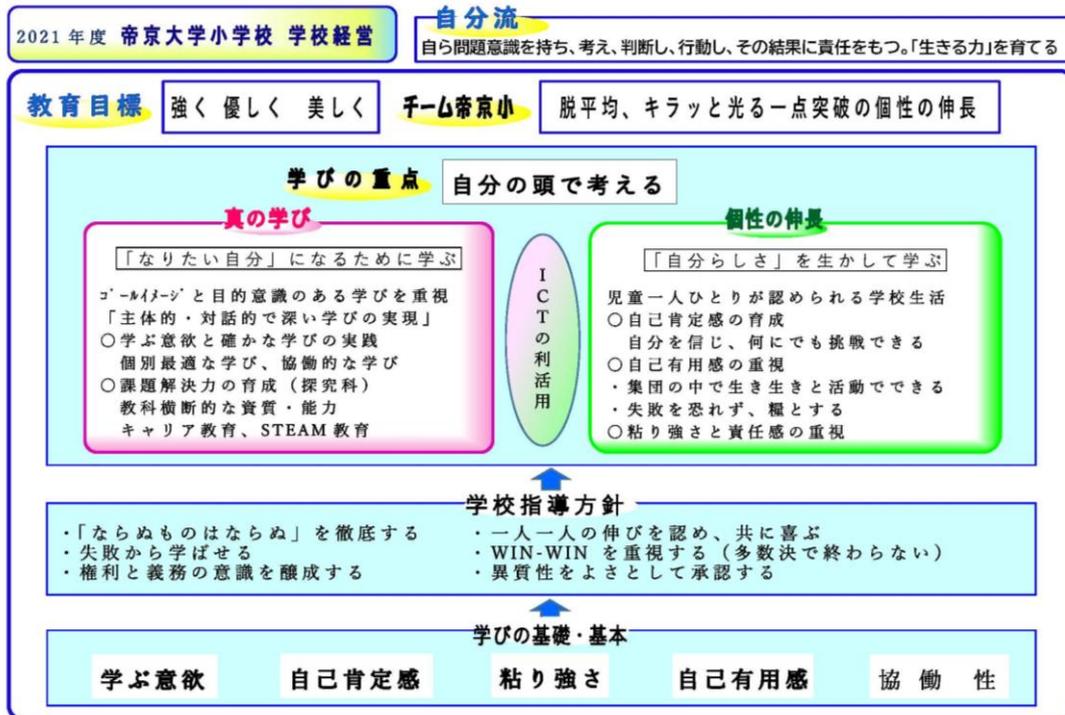
帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

脱平均、キラッと光る一点突破の個性の伸長

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

2021年度が新1年生50名を迎えて児童数 279名でスタートします。教職員は新たに常勤の教員4名と事務1名が加わり、新体制となります。with コロナの状況下ではありますが、教育活動を可能な限り止めずに、新学習指導要領に基づいた取り組みを積極的に進めていきます。特に本年度からは、帝京大学グループの理念である「自分流」を踏まえ、「脱平均、キラッと光る一点突破の個性の伸長」を目指していきます。また、教職員がチーム帝京小としてICTの利活用を図りながら、本校に適した個別最適な学び、協働的な学びのスタイルを創り上げ、「自分の頭で考える」子どもを育成していきます。



各種調査の結果から、日本の子どもたちの自己肯定感や将来の学びに対する意欲が低い傾向にあることが指摘されています。自分自身の個性(よさ)を認識し、他者からも認められ、その個性が学級や学校の活動で発揮できる環境があれば、伸長し自己肯定感は高まります。当然のことですが、その個性

は一人ひとり異なります。しかし、常に「平均を当たり前」とすることは、一人ひとりの個性を時として「特異なもの、変わっているもの」としてしまいます。グローバルな視点で自分と異なる個性を認め、楽しむことは子どもたちが国際社会で活躍するときに必要なダイバーシティにつながると考えています。また学びのゴールは、実社会において「どのような働きがいがあるか」が重要です。さらに、今後の大きな課題にSDGsがあります。教科教育を基盤として、キャリア教育やSTEAM教育を通して小学生なりの課題解決力を高める必要があります。

学校ではこれまで行ってきた教育活動の「ねらい」を見直し、教師の指導を必要最小限(基礎・基本は徹底)ながら子どもの学びや活動を最大限にしていくことで、学びの主体を子どもにしていきます。その中で、子どもたちに学びの道筋の立て方や学ぶための思考ツールはしっかりと教えていきます。学びが個別化すればするほど支援方法が多様化しますが、そこにICTを利活用していきます。また、一人での学びには限界があり課題解決にはチーム力が不可欠です。そのために協働的な学びを取り入れていきます。

キャリア教育やSTEAM教育を、SDGsの観点を踏まえながら企業と一緒に学びをつくる中で課題解決の仕方を学ぶ、そんな取り組みをまずは高学年から始め、やがては全学年に広がっていきます。